

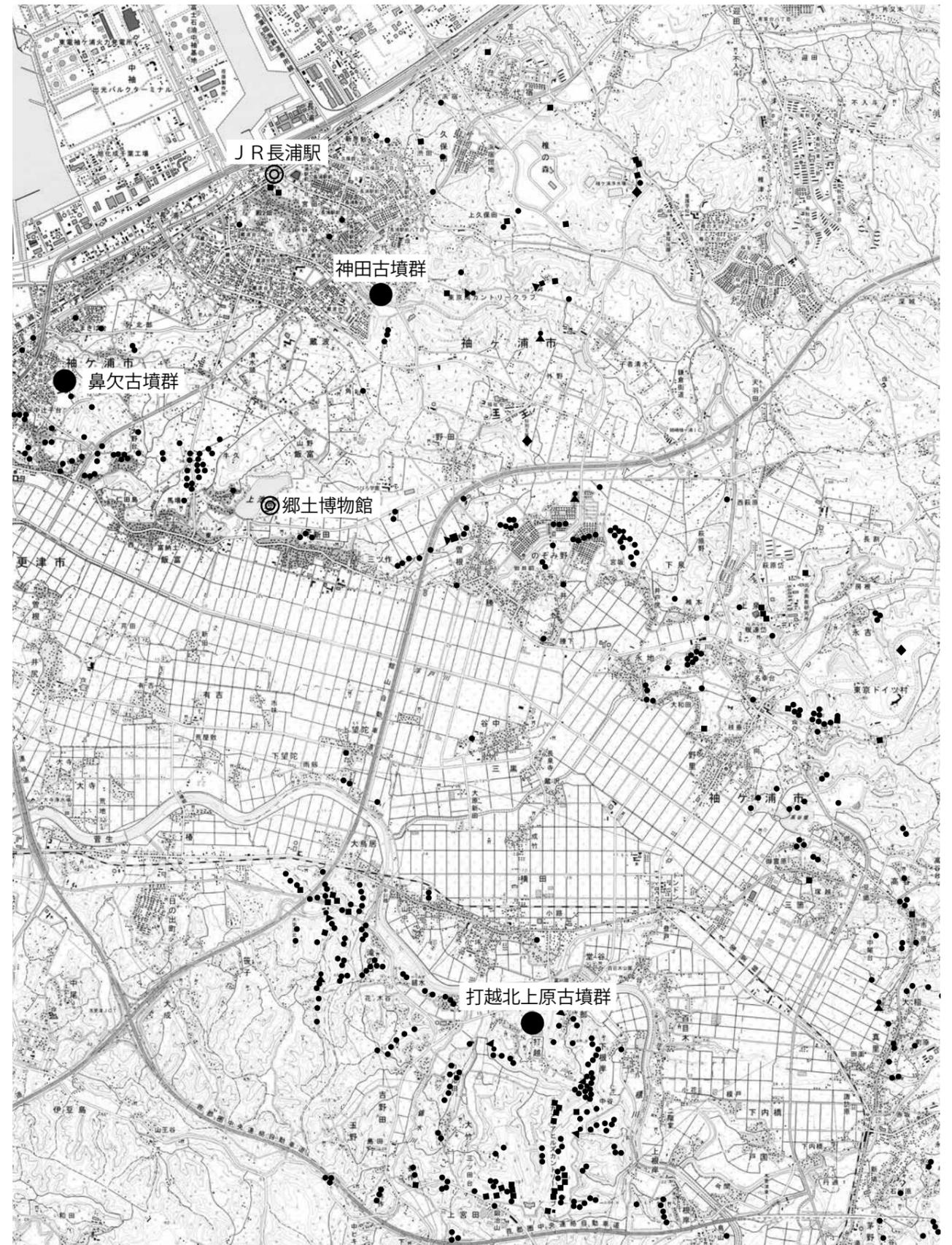
# 袖ヶ浦の古墳

- 袖ヶ浦市遺跡発表会 -



## プログラム

- |   |     |                        |
|---|-----|------------------------|
| 1 | 開催日 | 平成30年8月25日(土)          |
| 2 | 開場  | 長浦おかのうえ図書館 3階 視聴覚室     |
| 3 | 日程  | 9:30~10:00 受付          |
|   |     | 10:00~10:05 開会・趣旨説明    |
|   |     | 10:05~10:35 「神田古墳群」    |
|   |     | 10:40~11:10 「鼻欠古墳群」    |
|   |     | 11:15~11:45 「打越北上原古墳群」 |



## 発表遺跡位置図

(●: 前方後円墳、■: 前方後方墳、●: 円墳、■方墳)

# じんでんこふんぐん 神田古墳群

- 長浦おかのうえ図書館にあった前期の古墳群 -

## 遺跡の概要

神田古墳群は、蔵波川右岸の標高約 36 m の台地上に所在した古墳時代前期の古墳群です。

本古墳群は、長浦おかのうえ図書館の建設に先立ち平成 5 年度に発掘調査が実施され、縄文時代～中近世にかけての遺構と遺物が発見されました。弥生時代、古墳時代、中・近世には墓域として利用されており、この地域のお墓を考える上で重要な遺跡です。

## 神田古墳群

神田古墳群は、前方後方墳 2 基（1・2 号墳）、方墳 2 基（3 号墳・1 号方形周溝墓）の合計 4 基で構成される古墳群です。1～3 号墳は台地の西側縁辺に沿って、北西側の台地先端部から 1 号墳、2 号墳、3 号墳の順で、連なって築造されています。一方、4 号墳は、2 号墳の北東側 5 m のところに築造されています。いずれの古墳も北西－南東方向を向いて築造されています。

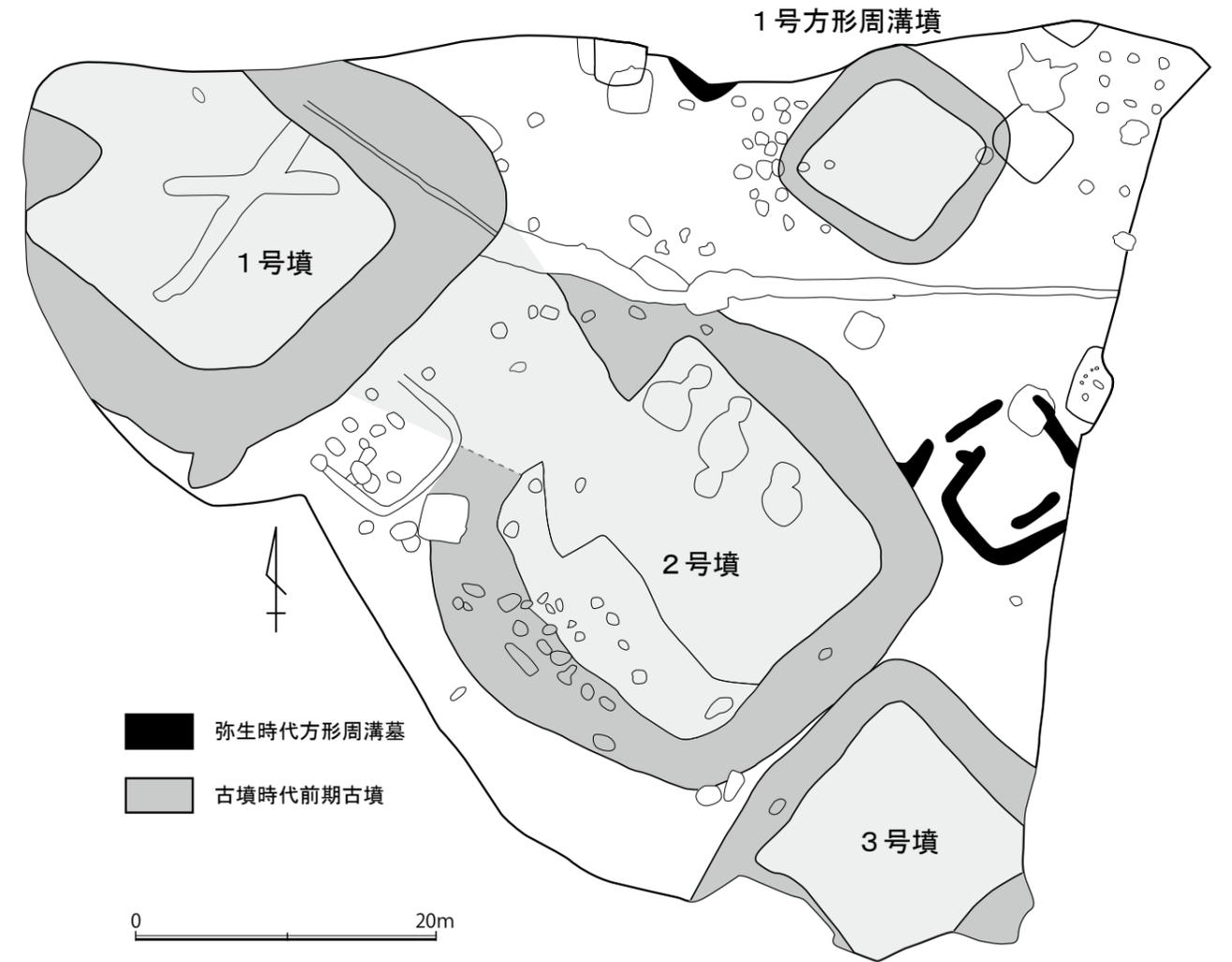
1・2 号墳は、前方部を北西側の台地斜面側に向け、残っている墳丘の長さは 20 m を超え、後方部の墳丘の高さは 3 m 以上になります。埋葬施設は墳丘ではなく、周溝内から見つかっています。発見された遺物

は、1 号墳の墳丘からは表面を赤く塗られ底に意図的に孔を開けられた壺が、2 号墳の周溝からは東海地方西部の特徴を持つ S 字状口縁台付甕が見つかりました。3 号墳は 1 辺 13 m 程で、墳丘の高さは 1 m ほどになります。墳丘から埋葬施設が見つかり、周溝内からノミ形の鉄鏃が発見されました。4 号墳は 1 辺 9 m 程で、墳丘は若干認められました。

## まとめ

袖ヶ浦市内の前期前方後方墳は、のぞみ野地区の山王辺田遺跡、三ツ作地区の宮ノ後古墳群、滝の口地区の滝ノ口向台遺跡で見つかり、神田古墳群と同様に小規模な方墳が付随する構成となります。また、周辺の遺跡にも小規模な方墳が認められます。発見された遺物には、東海、北陸、近畿地方のものが含まれており、それらの地域と交流があったようです。

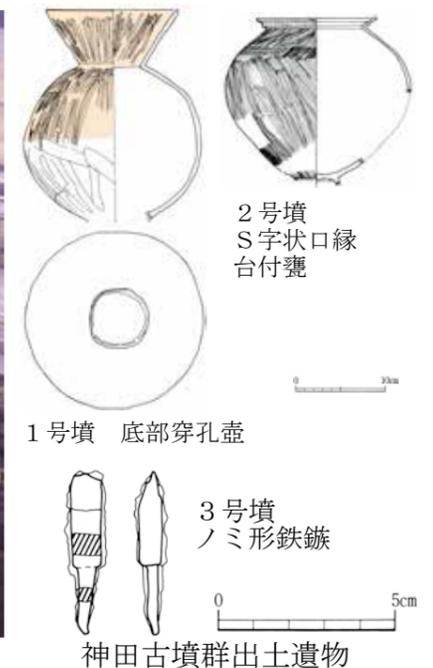
これらは、前方後円墳体制が広まっていく中で、これまでの墓制を継承し、前方後方墳を中心とした小地域の支配関係を示していると考えられます。神田古墳群の前方後方墳には、蔵波川の中・下流域を支配した者が葬られた可能性が考えられます。



神田遺跡・神田古墳群全体図



神田遺跡・神田古墳群航空撮影写真（北→）



はなかけこふんぐん  
鼻欠古墳群

- 古墳時代中期～後期築造の神納地区の古墳群 -

遺跡の位置

鼻欠古墳群は、JR内房線袖ヶ浦駅から北東へ約1.3kmの袖ヶ浦市立昭和中学校付近に所在します。境川の開析により形成された舌状台地の縁辺部標高22～24mに立地しています。

鼻欠古墳群

鼻欠古墳群では、現存する鼻欠1号墳と開発による発掘調査で3基の古墳（3～5号墳）が確認されています。この他に昭和中学校の北側に1基（2号墳）あったとされています。少なくとも5基からなる古墳群とみられます。

1号墳は、平成29年度に古墳隣接地の開発に伴い古墳の周溝の一部を調査しました。1号墳は円墳で、市内でも数少ない横穴式石室を有します。現存する墳丘の規模は、直径10m、高さ3mを測ります。周溝からは土師器片が出土しました。

3～5号墳は、昭和55年度に昭和中学校建設に伴う発掘調査で検出されました。3～5号墳は墳丘部が削平されていたため、高さや埋葬施設の形状は不明ですが、円墳であることがわかっています。古墳の規模は周溝外径で3号墳9m、4号墳17m、5号墳24mを測ります。古墳の周溝からは、数多くの遺物が出

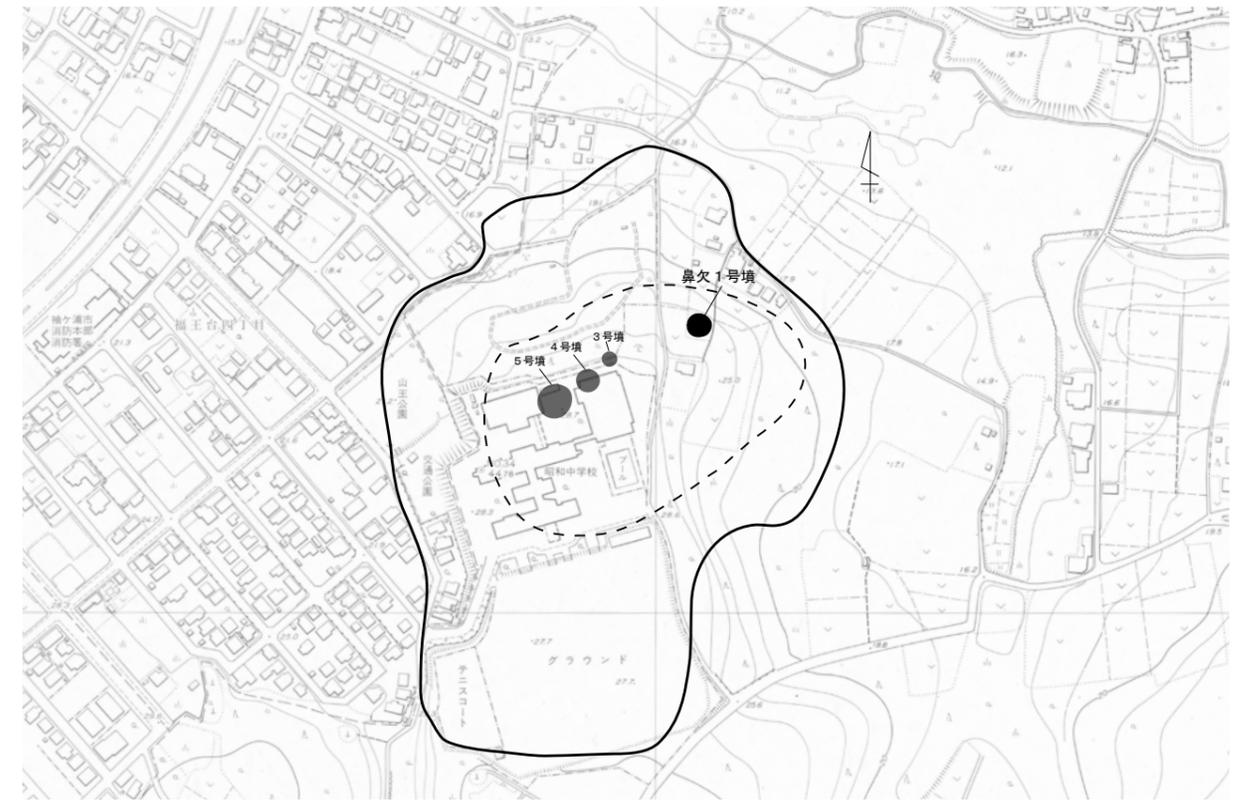
土しました。3号墳からは、鍬や刀子等の鉄製品や土師器の甕や須恵器の壺が出土しました。4号墳からは、土師器・須恵器の壺や多数の坏が規則性をもって出土しました。5号墳からは、土師器の坏や壺のほか、被葬者の性格を示すとみられる鉄製の釣針が出土しました。また、古墳群周辺の採集遺物として水晶製の切子玉や手捏ね土器等が伝わっています。

まとめ

古墳は全て円墳であり、出土遺物から古墳時代中期～後期にかけて5→4→3号墳の順に築造されたとみられます。4号墳では、遺物の検出状況から、古墳構築後に繰り返し祭祀が行われていた可能性があります。また、5号墳から鉄製の釣針が出土したことから、被葬者は海との関わりが深いと推測されます。鼻欠古墳群周辺の台地上には古墳と同時期の集落が分布しており、関わりを探る必要があります。

【図出典・参考文献】

鼻欠遺跡調査会 1984『鼻欠遺跡』／袖ヶ浦市史編さん委員会 1999『袖ヶ浦市史 資料編 原始・古代・中世』／袖ヶ浦市教育委員会 2018『平成29年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』



鼻欠古墳群地形図（1：5,000）



1号墳周溝検出状況



3号墳遺物出土状況



4号墳遺物出土状況



5号墳出土鉄製釣針

うちこしきたうえはらこふんぐん  
打越北上原古墳群

－ 中富地区に残る古墳時代後期の古墳群 －

### 遺跡の位置

打越北上原古墳群は、久留里線横田駅から南側へ約 1 km の中富地区打越に所在し、小櫃川中流域の標高 40 ～ 50 m の台地上に位置しています。現在、古墳群の大部分は種苗育場の畑地として利用されています。

### 打越北上原古墳群

打越北上原古墳群は、前方後円墳 2 基と円墳 6 基の計 8 基で構成される古墳群です。古墳群は北側へ延びる舌状の台地の先端部と、短い尾根を挟んで西側へ延びる台地上に立地しており、北側台地上に前方後円墳 1 基、円墳 3 基、西側台地上に前方後円墳 1 基、円墳 2 基が現存します。円墳の第 8 号墳は消失のため、詳細は不明です。北側台地に立地する第 3 号墳は、市内では数少ない前方後円墳であり、墳丘の残りが良いことから、昭和 59 年に袖ヶ浦町指定文化財（現：市指定文化財）に指定されています。

### 打越北上原古墳群第 3 号墳

打越北上原古墳群第 3 号墳は、全長 44.5 m、前方部幅 24 m、後円部径 24.5 m を測ります。前方部・後方部とも地表からの高さは 5 m を測ります。古くは昭和 25 年頃にアメリカ進駐軍将校マッコード少佐らに

よって調査が行われ、横穴式石室であったことが知られていました。しかし、当時の調査記録は写真が数枚残るのみで詳細は不明でした。そこで平成 27・28 年度に後円部の南側周溝部と墳丘部の調査を実施したところ、後円部において幅 5.5 m ・ 深さ 2.9 m 以上の盾形と推測される巨大な周溝が見つかり、横穴式石室に用いられたと推測される軟質砂岩や、市内初の金銅装の馬具片が出土しました。

### まとめ

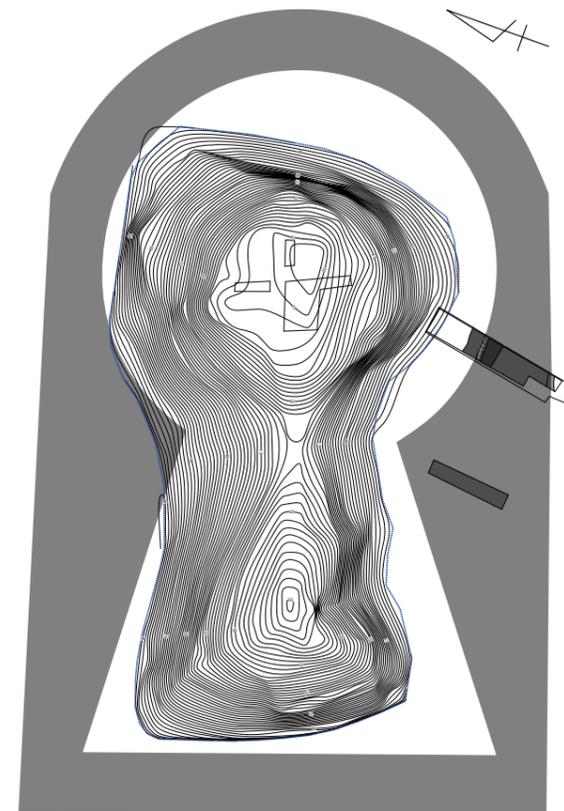
近年の調査成果から、第 3 号墳は大規模な盾形周溝を有する 6 世紀後葉の前方後円墳であると推測されます。また、古墳の規模や副葬品から、被葬者は小櫃川流域に多数築造された古墳群の中でも有力者であったと考えられます。

### 【図出典・参考文献】

袖ヶ浦市史編さん委員会「袖ヶ浦市史 資料編 1 原始・古代・中世」袖ヶ浦市／大河原務他 2016「平成 27 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書」袖ヶ浦市教育委員会／大河原務 2017「平成 28 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書」袖ヶ浦市教育委員会



打越北上原古墳群地形図（1：5,000）



打越北上原古墳群第 3 号墳  
周溝復元図（1：500）



石室内の様子（戦後調査時の写真）



出土馬具片